

会派視察報告書

会派名 自民クラブ

代表者名 嶋内九一

1 日 に ち	令和5年 2月28日 (火)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	第29回建築・建材展2023について
3 参 加 者	嶋内九一 柴田雅也 吉田企貴 城處裕二 玉置真一 山田 徹
4 調査・研修の テーマ	多治見市美濃焼タイル振興協議会の建築・建材展出展状況について
5 主な内容	タイル100年の時間に思いを馳せる そして未来へつなぐ 現在・過去・未来 CERAMIC TILE MINO 内外装タイル、床タイル、モザイクタイル、それに伴うパンフレット やカタログなどの出品、展示・紹介。
6 所感、提言事項、課 題等	【議員氏名】嶋内九一 タイル名称統一100周年事業の締めくくりに相応しいイベントであった。各社タイルの特徴を活かし、工夫を凝らしたブース展開がされていた。また展示ブースをくまなく廻って頂けるようスタンプラリーを取り入れるなど来場者に対する姿勢も良かった。今後はイベントが終わってからの各社の動きが重要である。 【議員氏名】柴田雅也 今回は昨年のタイル名称統一100周年となって最初の建築建材展であり、after コロナとして美濃焼タイル業界が国内外へ戦略的にアピールして売り込まなければならない重要な出展機会であるとの認識を持っている。 そのような中で出展社は一概にタイルとしての同一性の製品ではなく、美濃焼タイルの可能性、多様性を感じさせる釉薬やテクスチャーなどに工夫した製品が多く、各社が特徴ある製品をよりアピールする出展構成をしていると感じた。

6 所感、提言事項、課題等	また、多治見市はこの建築建材展覧展のための美濃焼タイル振興協会への補助金支援をしているだけでなく、美濃焼タイル業界への意匠研究所・ishoken による技術支援もしている。 その成果の展示は行政の業界への支援について理解を深める意味でも重要な展示コーナーであると思った。 この成果展示は ishoken に市内四工組による業界要望で導入された 3D プリンター、3D スキャナーを活用した樹脂金型による新製品開発サンプルであり、オリジナル性に富む製品開発のみならず、クライアントニーズへの対応にも寄与し、コストダウンの面もあり、一層の活用が望まれるものであると感じた。 今後も議会として、タイル名称統一 100 周年の下で国内タイル産業の中心的な本市の美濃焼タイル業界が持続可能なタイル産業であり続けるための支援について、官民連携して、取り組んでいく必要性を改めて強く感じた。 【議員氏名】吉田企貴 展示会の参加者自体が減っていたため、ブースとブースの間が広く閑散とした印象を受けた。ただし、需要は旺盛なようで各出展者も英語や中国語による取引を盛んにしており、成長につながる展示会であることは確認できた。 【議員氏名】城處裕二 タイル名称統一 100 周年事業のエンディングにあたる事業である。コロナに振り廻された近年であったが、本年はイベント規模も賑わいも以前を取り戻しつつ有ると実感した。これからの 100 年へ向けての新たな挑戦として、各社工夫を凝らし独自性をアピールしていたように感じた。絵画のようなモザイクタイル、大理石や染め物や木材を思わせるデザインタイル、大変大きなサイズのタイルなど様々である。 昨今は通信技術の進歩により、オンラインによる展示会等も有るが、やはり現物を手に取り、直接フェイス・トゥ・フェイスで行う商談も大変重要であり、今後も見守り支えていく重要性を感じた。
----------------------	--

【議員氏名】 玉置真一

昭和30年代後半から40年代には小さなモザイクタイルが沢山作られ、幼少期育った市営住宅は玄関、台所、トイレ、風呂など身近にタイルの存在が有った。現在は建築工法も様変わりし工期も短縮され一般住宅でのタイルの需要は減ったと聞いていたが、今回の建築建材展では建材としてのタイルの他タイルライフとして生活の一部にタイルを取り入れた商材もあり別の意味でタイルの将来性を感じた。もちろん外壁建材として5.6mm×1000×3000mmの大判タイルが施工でき、湿気の発生を防ぎ内部の結露を防ぐ効果も有る世界初の乾式工法や建設外壁仕上げの重要課題である剥離・剥落の防止効果のある弾性接着張り工法など、さらに安心・安全な工法として注目されていた。

【議員氏名】 山田 徹

昨年より行われていたタイル名称統一 100 周年イベントの集大成が今回の建築・建材展であるとのこと、昨年にも増して展示されているものに熱意を感じた。タイルを使ったモザイク画の作成方法などを聞いた。新市庁舎の玄関にモザイク画を作成するなど今後の市のランドマークになると思う。また新たな工法による外装用タイル、デザイン性の優れたタイルの開発であったりそれぞれの企業の努力と熱意の結晶が拝見できた。その中でも先ほども上げたモザイク画のために数百種類の色が再現されたタイルには驚くとともにタイルの深さを改めて感じる事が出来た。

7 写 真 等

※視察の場合は必須、研修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。